



アンドレアス・シュタイアー (2013.12.4) © 大窪道治

アンドレアス・シュタイアー (フォルテピアノ)
ロナルド・ブラウティハム (フォルテピアノ)
対照的なふたつの個性を楽しむ 安田和信

2024/25シーズン オープニングコンサート
ベートーヴェン — その多様さを聴く

山根一仁 (ヴァイオリン) / 笹沼 樹 (チェロ) / 大西宇宙 (バリトン)
兼重稔宏 (ピアノ) / 大井 駿 (フォルテピアノ)
進取の気性に富む“楽聖”への挑戦!

マーク・パドモア (テノール) & **大萩康司** (ギター)
魂の交歓が生み出す、美しき詩の世界

[Schedule 2024.10 ~ 2025.3]

[Information]

山根一仁 (ヴァイオリン) J.S. バッハ: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ & パルティータ全曲演奏会
ランチタイムコンサート Vol.130 秋元孝介 (ピアノ) / 第93回 日本音楽コンクール 予選

Andreas Staier & Daniel Sepec & Roel Dieltiens



“一点集中主義”シュタイアー “百科全書”ブラウティハム 対照的なふたつの個性を楽しむ

安田和信

ロナルド・ブラウティハムとアンドレアス・シュタイアーは1950年代半ば生まれの同世代である。だが、彼らのキャリアは筆者にはかなり異なって見える。私が最初にその演奏を知ったのは1980年代のシュタイアーであった。1970年代以降のドイツでピリオド楽器演奏をリードしたレジェンド的なアンサンブル「ムジカ・アンティクワ・ケルン」のチェンバロ奏者として、センスにあふれる通奏低音を弾いていたことが強烈な印象を残した。その後ソリスト、室内楽奏者としてチェンバロ、フォルテピアノを駆使した活動は現在に至るまで旺盛である。

一方、オランダ出身のブラウティハムはあのルドルフ・ゼルキンに薫陶を受け、初期のキャリアはモダン・ピアノが中心であったように映る。しかし、18世紀後半から19世紀初頭にかけてのレパートリーを同時代の楽器で演奏することによって、さらに国際的な注目を浴びようになる。特にW.A. モーツァルト(1756-1791)、J. ハイドン(1732-1809)、L.v. ベートーヴェン(1770-1827)のピアノ独奏作品を網羅的に録音するなど、録音上でもその「百科全書」的な活動には圧倒される。歴史的楽器とモダン・ピアノを柔軟に弾き分け、しかも主要レパートリーも18世紀後半から20世紀にまで及ぶ。ブラウティハムはこうした道を強力に押し進めた最初のピアニストと評して良いだろう。

さまざまな楽器を弾き分ける点では、シュタイアーはさらに幅が広い。彼のレパートリーはルネッサンス期から現代まで、楽器もチェンバロやフォルテピアノからモダン・ピアノにまで及ぶ。そのディスコグラフィはブラウティハムに比べると非常に対照的でもある。ブラウティハムの録音は網羅性が際立つこともあるが、シュタイアーは幅広い時代からより多くの作曲家を選び、おそらくは彼自身を取り上げるに値すると考えた作品を選んで、一つのアルバムを制作する傾向が強い。実際のところ、彼は比較的数量の少ないモーツァルトのソナタさえも全て録音しているわけではない。いわば「一点集中主義」がシュタイアーの真骨頂である。

以上のような彼らのディスコグラフィの特徴は、ことによるとそれぞれの演奏を象徴しているのかもしれない。筆者にはブラウティハムは常にバランス感覚を持っているように聞こえる。必要にして十分な表現を細部に至るまで仕込ませるのだが、極端なことはせず、例えば彼のハイドンのピアノ曲の全集録音は万人に向けて勧めることができるリファレンスにもなり得るに違いない。

一方、シュタイアーは個々の作品と徹底的に向き合った上で、「これしかない」という唯一無二の解釈を掘り下げていく。時にアクが強いと思われることもないわけではない。だが、彼の手から生まれる音楽はオリジナリティにあふれている。その解釈は万人向きというより、薬にも毒にもなるような妖しく強烈な光を放ってくる。彼が著名な作曲家以外にも積極的にスポットを当てるのも、彼独自の「光」がマイナーな作曲家に現代的生命を与えることを十分に自覚しているからだろう。

実際のところ、彼らの対比は2024年の来日公演のプログラムにも反映している。シュタイアーは盟友のダニエル・ゼベック、ロエル・ディールティエンスとの共演によるトリオ、そしてソロ・リサイタルにしても作曲家やジャンルの重複を極力避けている。トリオではウィーン古典派の前に、3名がそれぞれに影響を受けたカール・フィリップ・エマヌエル・バッハ(1714-1788)の作品を置くという構成は、鍵盤、ヴァイオリン、チェロという編成が18世紀後半において多様性を持つことを私たちに教えてくれることになる。

ソロでは幻想曲、ソナタにおけるエマヌエル・バッハとモーツァルトの個性の相違を鮮やかに示した後、ハイドン独自の2つの主題が交互に変奏される《アンダンテと変奏曲 ヘ短調》、そして19世紀に流行を見る小品集の先駆けであるベートーヴェンのバガテルで締められる。ここに見られるのは、古典派のピアノ独奏音楽におけるジャンルの広がりであり、エマヌエルに象徴される北ドイツと南のウィーンとの極烈なコントラストである。

では、ブラウティハムはどうだろう。彼自身が既に全集録音を終えているハイドン、ベートーヴェンのソナタに焦点をあてたプログラムは、ジャンルもソナタに限定した構成で、シュタイアーのものとは一味異なる。今回のプログラムに含まれるハイドンの2曲は1780年代半ばの作で、当時の彼は押しも押されぬ著名な作曲家となっていた。そして1790年代に入ってハイドンの弟子になるべくベートーヴェンは故郷ボンからウィーンへやってくる。ウィーン時代初期にはピアニストとしての活動も旺盛で、発表作品もピアノ独奏やピアノを含む作品が中心を占めていたが、その個性はハイドンとはかなり違うものであった。

冒頭に置かれた導入部が2度回想される《悲愴》、葬送行進曲を含む破格な4楽章構成の第12番、幻想曲風ソナタという異例のタイトルを持つ《月光》、そしてスケルツォとメヌエットの双方を有する第18番と、若きベートーヴェンの豊かな才能が一目瞭然の傑作に伍するにはベテランのハイドンの作品はいかにも地味に映るかもしれない。しかし、いずれも2楽章構成を取る2曲はこの作曲家からしか生まれ得ない知性とユーモアを感じさせるもので、最終的には世代を超えた二人の天才の素晴らしさを味わうことができるだろう。

「一点集中主義」と「百科全書」。対照的なシュタイアーとブラウティハムを短期間で聴けるとは！この秋一番の醍醐味だ。

(やすだ・かずのぶ／音楽評論家)

〈アンドレアス・シュタイアー プロジェクト 13、14〉 アンドレアス・シュタイアー (フォルテピアノ)

2024年10月26日(土) 15:00 トリオ

ダニエル・ゼベック (ヴァイオリン)
ロエル・ディールティエンス (チェロ)
C.P.E. バッハ: ソナタ イ短調 Wq90-1
(ヴァイオリンとチェロを伴ったクラヴィア・ソナタ)
モーツァルト: ピアノ三重奏曲第6番 ハ長調 K548
ハイドン: ピアノ三重奏曲 変ホ長調 Hob.XV-29
ベートーヴェン: ピアノ三重奏曲第2番 ト長調 Op.1-2
7,000円 / U-25 3,500円 全席指定

2024年10月28日(月) 19:00 一ソロ

モーツァルト: 幻想曲 ハ短調 K475
C.P.E. バッハ: ピアノ・ソナタ ホ短調 Wq59-1
C.P.E. バッハ: 幻想曲 ハ長調 Wq61-6
モーツァルト: ピアノ・ソナタ ヘ長調 K533+K494
ハイドン: アンダンテと変奏曲 ヘ短調 Hob.XVII-6
ベートーヴェン: 6つのバガテル Op.126
6,500円 / U-25 3,000円 全席指定

2公演セット券
11,610円 / トッパンホールクラブゴールド会員10,260円

特別協賛: 株式会社 安藤・間
協賛: 株式会社トッパンインフォメディア
株式会社トッパン保険サービス

[シュタイアー使用楽器]
ヨハン・ゲオルク・グレーバーのオリジナル
(ウィーン式 / 1820年製)

ロナルド・ブラウティハム (フォルテピアノ)

2024年11月11日(月) 19:00

ハイドン: ピアノ・ソナタ 変ロ長調 Hob.XVI-41
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第8番 ハ短調 Op.13《悲愴》
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第18番 変ホ長調 Op.31-3
ハイドン: ピアノ・ソナタ ト長調 Hob.XVI-40
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第12番 変イ長調 Op.26《葬送》
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第14番 幻想曲風ソナタ
嬰ハ短調 Op.27-2《月光》
6,000円 / U-25 3,000円 全席指定

特別協賛: 清水建設株式会社

[使用楽器]
アントン・ワルター1800年頃モデル
(ポール・マクナルティ2002年製作)

Ronald Brautigam



Kazuhito Yamane

Tatsuki Sasanuma

Takaoki Onishi

Toshhiro Kaneshige

Shun Oi

2024/25 SEASON OPENING CONCERT

閃き、躍動、そして美しき静謐——進取の気性に富む“楽聖”への挑戦！

2024/25シーズンは、ハイドンとフォルテピアノに着目していただきたいと思い、これにまつわる公演を集中して企画しプログラミングした。フォルテピアノは、シーズンオープニングを皮切りに、シュタイアー（10月）、ブラウティハム（11月）、ペザイデンホウト & FBO（4月）、トマシュ・リッテル（6月）が登場。ハイドンに関しては、当然ながら上記出演者の公演と絡むものが多く、白眉には、アントニー二率いるイル・ジャルディーノ・アルモニコの交響曲2曲を据え、来年のFBOへと続く。あまりにも多作で、そのために職業人とみなされがちだったハイドンの、したたかな腕前と作品の出来栄への見事さを、いまをときめく演奏家の手で蘇らせて欲しいと願っている。そこには、閉塞しているクラシック音楽視聴の扉をひとつ開けることに繋がってほしいという願いも籠められている。

ハイドンに眼を向けるとなれば、モーツァルトやベートーヴェンにも着目せざるを得ない。そこでシーズン開幕は、ベートーヴェン。それも「ベートーヴェン」と言われてすぐに思い浮かぶイメージとは少し距離を置いた、フレッシュさや優しさ、なぐさめ、メディテーション、そして心のトキメキ…などが秘められた作品をトッパンゆかりの俊英の手に委ね、味わいたいと考えた。題して「ベートーヴェン その多様さを聴く」。《ヴァイオリン・ソナタ Op.12》は、ハイドンを範としながらもそこに革新的な精神で自身の自我と主張を散りばめた意欲作。それぞれの楽器に人格を持たせたようなベートーヴェンの二重奏でのアプローチ（とはいってもまだ初期作品なので、楽譜にはクラヴィチェンバロまたはフォルテピアノのための、ヴァイオリンを伴う3つのソナタと記されている）は、記録によると、当時の聴衆にとってはまさに進取の精神で、その狙いを解せなかった人も多

かった様子だ。今回は、作品に籠められた想いを少しでも再現できたらと願い、山根一仁と、指揮者でもある（ということは当然ながらアナリーゼにも卓越している）大井駿に登場してもらい、フォルテピアノを使っのアプローチを試みた。コンクールの影響もあってか、ヴァイオリニストといえども平均律的な音程で弾かないと「音程が悪い」と叩かれることが多い昨今だが、ヴァイオリンの、そして弦楽器の持ち味とおもしろさは、本来その調性感にある。微分音の領域を視野において表現できる優位性を活かさずして弦楽器というなかれ。そんな私の想いと考えがずっと通じるふたりだ。初登場の大井は共演する山根について「2022年にブランデンブルク協奏曲第5番で初共演。その時の音程感、多様なヴィブラートの使い分けによる音のグラデーションの巧みさ、音楽の圧のかけ方の独自性に強く惹かれ、これまでラヴェルやベートーヴェンを一緒に弾いた。既成の枠にとどまらない自由さ、（奇を衒ったのではない）新たな表現を求める探求心が共通している」と語っている。どうだろう、おもしろくなりそうではないか。

ヴァイオリン・ソナタと異なり、チェロ・ソナタは、彼の生涯の各時期に作曲されている。今回は、中期の気力充溢した第3番と、後期の第4番を取り上げるのだが、第4番には注目すべき（そして後期になればなるほど顕著に表れる）ベートーヴェンのもう一つの側面が色濃く描き出されている。それは、「2つの楽器が織りなす心情の吐露のような深い次元での対話と、技巧的な丁々発止の止揚感が絶妙にあいまった独自の室内楽の醍醐味」とも言うべきものだ。これは彼以前には存在しなかった表現志向であり、のちのロマン派誕生の嚆矢ともなる。また、この「時の経過と共にしずかに心

が満ちていく」ような感覚は、晩年の長大な傑作《ミサ・ソレムニス》に繋がると言ったら大袈裟だろうか。今回は、懐深い音楽を奏でる笹沼樹と、ライブツィヒ仕込みを感じさせる重厚にしてしなやかな味わいを持つ兼重稔宏のデュオが、その境地に誘ってくれるであろう。楽曲は、ベートーヴェンにとっても心惹かれるジャンルだった。詩（言葉）を得た彼は、言葉の力を強く信じて作品を創っている。ここではぜひ、詩の響きと意味も意識しながら有名な2作品を味わっていただきたい。大西宇宙と兼重のコンビは初共演！ドキドキ感も損なわず、清新さや純真さがまぶしいような歌を聴かせてくれることを期待したい。器楽にも人格を持たせたベートーヴェンの3組の対話による様々な時代の様々な顔と感情…。ぜひご期待ください。

（西巻正史／プログラミング・ディレクター）

トッパンホール 24周年
2024/25 シーズン オープニングコンサート
ベートーヴェン その多様さを聴く

2024年10月7日（月）19:00

山根一仁（ヴァイオリン）／笹沼 樹（チェロ）／大西宇宙（バリトン）
兼重稔宏（ピアノ）／大井 駿（フォルテピアノ）

ベートーヴェン：チェロ・ソナタ第4番 ハ長調 Op.102-1 **A**
：ヴァイオリン・ソナタ第1番 ニ長調 Op.12-1 **B**
：ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ長調 Op.12-2 **B**
：アデライーデ Op.46 **C**
：連作歌曲《遙かなる恋人に寄す》Op.98 **C**
：チェロ・ソナタ第3番 イ長調 Op.69 **A**

6,000円／U-25 3,000円 全席指定
特別協賛：株式会社 安藤・間

A 笹沼、兼重 **B** 山根、大井 **C** 大西、兼重



Mark Padmore & Yasuji Ohagi

魂の交歓が生み出す、美しき詩の世界

あたたかく繊細、そして誠実。魅力あふれるチャーミングな人柄と、優しい透明感がともに美しいふたりのアーティストが、それぞれに縁深いトッパンホールで初共演する。《歌曲の森》シリーズの立役者のひとりであるイギリスの名テノール、マーク・パドモアと、《エスポワール シリーズ》で深掘りした室内楽の醍醐味を今も追求し続けるギタリスト、大萩康司だ。この公演を2024年のハイライトと意気込む大萩は、早くからエンジンの回転数を上げ、入念に準備を重ねて公演に挑む。そんな彼に歌手との共演について訊くと、そこには独特の難しさがあるという。

「楽器の特性によっておのずと表現の仕方が共通してくる器楽と違い、歌は、歌手ひとりひとりの表現が千差万別。その違いの意図をキャッチし、いかにギターに乗せていけるか、面白いところでもあり、そして難しいところです」。なるほど、同じフレーズ同じ言葉でもどう味付けするかは人それぞれで、予想がつかない。それだけに、パドモアとの初共演にも不安があるのかと思いきや、「まったく心配していません（笑）。日本で楽譜が入手しづらい曲があったので直接メールで相談したのですが、彼からの返事は人柄そのままにとっても丁寧ですごく誠実。なにより、ギターとのCDも出しているだけあってギターの特性を本当によくご存じで、プログラムをひとめ見ただけでそのことがすぐわかるくらい。調性の面でギターに配慮されていたり、難易度MAXのギター技巧が散りばめられた挑戦し甲斐のある作品や、ギターファンにも嬉しい作品もしっかりと提案してくださって。実際にお会いする前から信頼感が凄いです。あとは自分自身を本番まで可能な限り負荷をかけつつも最善の状態へ調整していけるか、かなと（笑）」。

思いがけず実現した共演には喜びと、そして驚きも。「サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルとの《マタイ受難曲》福音史家の映像がとても印象的で、存在はもちろん知っていたのですが、そのあまりに美しく透き通った優しい歌声に、テノールでこんな風に歌える方がいるんだ！と衝撃を受けました。まさかその方と共演できる日が来るなんて」。

20年前、〈トッパンホール クリスマスコンサート〉でソプラノの林正子と共演して以来、少なくない歌手との共演を重ねるなかで経

験を培い、自身の引き出しも豊かに育んできた。「音を出した瞬間に言葉に色彩が宿る、その言葉と音との関係性がとても面白い」。それは、作家が詩に託した言葉の意味と、歌手がそこから拾い上げるニュアンスに、いかに音楽的に寄り添うことができるかを大切に、丹念に共演者と世界を創り上げてきた経験の結晶だろう。

歌曲の世界では「神様のように」なパドモアとの共演、「赤ちゃんの気持ちで、全てをスポンジのように吸収したい」と謙遜するが、長年クラシックギターの第一線で活躍し続けるトップランナーの強い矜持が、穏やかなたたずまいのなかにも漲っている。2024年10月16日のトッパンホール、この日この場所、この瞬間でこそ生まれる、一期一会の音楽の“対話”。ダウランドからイングランド民謡へ、色彩豊かな音楽の旅は、名手ふたりの魂の交歓からしか生まれ得ない、至福の時間となるだろう。

「トッパンホールで室内楽の魅力と難しさに触れてから20年。皆さんには成長の記録を舞台上で聴いていただけたら嬉しいな、と思います。ちょっとは良くなったでしょ？って」。そう笑顔を見せる姿に、いまからワクワクが止まらない。

（安井智宏／企画制作部）

マーク・パドモア（テノール）& 大萩康司（ギター）
2024年10月16日（水）19:00

ダウランド：さわぎ立つ思いよ／もういちど帰っておいで、やさしい恋人よ／優しい森よ／あふれよ、わが涙
ブリテン：オペラ《グロリアーナ》Op.53より
〈エセックス伯の第2リキュート歌曲〉
アレック・ロス：《わがリキュートと私》より 〈Sometime I Sing〉
シュペルト：水の上で歌う D774／野ばら D257／《白鳥の歌》より
〈セレナード〉 D957-4／夜曲 D672／春のおもい D686
ブリテン：中国の歌 Op.58
ステイーヴン・マクネフ：《エデン・ロック》より 〈ある男〉〈エデン・ロック〉
アレック・ロス：チャイニーズ・ガーデン
イングランド民謡：スカボロー・フェア（ロス編）／恋人にリンゴを（ブリテン編）／ボニー・アット・モーン（ブリテン編）／キジバト（ロス編）

6,500円／U-25 3,000円 全席指定
特別協賛：清水建設株式会社

SCHEDULE

2024.10 ～ 2025.3

主催公演

トップパンホールチケットセンター

(10:00～18:00 土日祝休)

03-5840-2222

日時		公演
10	7 (月) 19:00	トップパンホール24周年 2024/25シーズン オープニングコンサート ベートーヴェン—その多様さを聴く 山根一仁 (ヴァイオリン) / 笹沼 樹 (チェロ) / 大西宇宙 (バリトン) 兼重稔宏 (ピアノ) / 大井 駿 (フォルテピアノ) 特別協賛：株式会社 安藤・間
	16 (水) 19:00	マーク・バドモア (テノール) & 大萩康司 (ギター) 特別協賛：清水建設株式会社
	26 (土) 15:00	〈アンドレアス・シュタイアー プロジェクト 13〉 アンドレアス・シュタイアー (フォルテピアノ) & ダニエル・ゼベック (ヴァイオリン) & ロエル・ディールティエンス (チェロ) 特別協賛：株式会社 安藤・間
11	28 (月) 19:00	〈アンドレアス・シュタイアー プロジェクト 14〉 アンドレアス・シュタイアー (フォルテピアノ) 特別協賛：株式会社 安藤・間
	11 (月) 19:00	ロナルド・ブラウティハム (フォルテピアノ) 特別協賛：清水建設株式会社
	20 (水) 19:00	郷古 廉 (ヴァイオリン) & ホセ・ガヤルド (ピアノ) 特別協賛：株式会社きんでん
12	7 (土) 17:00	パトリツィア・コバチンスカヤ (ヴァイオリン) & カメラータ・ベルン
	9 (月) 19:00	特別協賛：鹿島建設株式会社
	13 (金) 19:00	ジョヴァンニ・アントニーニ指揮 イル・ジャルディーノ・アルモニコ 特別協賛：株式会社 安藤・間

日時		公演
1	20 (月) 19:00	トップパンホール ニューイヤーコンサート 2025 ピーター・ウィスペルウェイ (チェロ) 山根一仁、毛利文香 (ヴァイオリン) / 湯本亜美 (ヴィオラ) / 北村朋幹 (ピアノ) 特別協賛：鹿島建設株式会社
	10 (月) 19:00	Trio Rizzle Vol.4 毛利文香 (ヴァイオリン) / 田原綾子 (ヴィオラ) / 笹沼 樹 (チェロ)
	26 (水) 19:00	エペーヌ弦楽四重奏団 特別協賛：株式会社 安藤・間
3	27 (木) 19:00	ベルチャ・クアルテット 特別協賛：東急建設株式会社
	28 (金) 19:00	ベルチャ・クアルテット×エペーヌ弦楽四重奏団 特別協賛：鹿島建設株式会社
〈ランチタイムコンサート〉 トップパンホールが選んだ若手ホープによるミニ・コンサート [全席指定]		
11	22 (金) 12:15	Vol.130 秋元孝介 (ピアノ)
	1 / 22 (水) 12:15	Vol.131 湯本亜美 (ヴァイオリン)

※開場は開演の30分前となります。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。なお、全主催公演で託児サービス[要予約・有料]をご利用いただけます。
ご利用の詳細については、各公演チラシをご確認ください。

2024年8月中旬現在

最新情報はオフィシャルWEBサイトでご案内しています ※WEBチケットもご利用いただけます

www.toppanhall.com

INFORMATION

ふたたびのJ.S. バッハ——^{いま}現在地を映す、究極の無伴奏！

来年25周年を迎えるトップパンホール。開館以来繰り返し登場するアーティストも多く、その度にホールの幹に深く年輪を刻むような熱演、名演を響かせてくれています。そのなかでも演奏家としての進化の軌跡をしっかりと残してきた一人が、10代半ばからトップパンの舞台で大きな挑戦を重ねている、ヴァイオリンの山根一仁。その挑戦の折々にじっくりと向き合ってきたのは、自身の「真ん中にある」と語るJ.S.バッハです。難しいからこそ追求したいというその高みは、多彩なアーティストたちとの共演やミュンヘン留学、そして誰もが体験したコロナ禍での戸惑い…と、多くの得難い経験を重ねてきた山根にとって、ことさらに特別で身近に感じられる存在となってい



2023年7月のトップパンホール主催公演から

知られざる秘曲へ初挑戦！



お昼のひとつきに本格的な演奏会が楽しめるトップパンホールの〈ランチタイムコンサート〉。いまや世界の音楽シーンに欠かせない存在へと成長したアーティストを多数輩出している人気シリーズが、11月にスポットを当てるのは、ピアノの秋元孝介。ソロや奏トリオの要として、国内外で活動を展開している逸材です。トップパンホールへは、〈ランチタイムコンサート〉第100回(2019年5月)のスペシャル企画に奏トリオで登場。以来5年ぶりとなる今回、最も心惹かれる作曲家だというメトネル作品のなかから、演奏される機会の少ない知られざる秘曲〈ヴァイオリン・ソナタ第3番〉を、ヴァイオリンの黒川侑を迎えてお届けします。芸術の秋に相応しい意欲あふれる挑戦のステージに、どうぞご期待ください。

〈ランチタイムコンサート Vol.130〉
秋元孝介 (ピアノ)

2024年11月22日(金) 12:15

黒川 侑 (ヴァイオリン)

メトネル：ヴァイオリン・ソナタ第3番 ホ短調 Op.57《エビカ》

入場無料(要予約／お一人様2席まで)

受付期間：2024/10/11(金)～11/1(金)

お申し込み方法：ハガキ(抽選制・当選者のみ通知)

〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3
トップパンホールチケットセンター「ランチタイムコンサート Vol.130」受付係
(住所、氏名(フリガナ)、電話番号、希望席数を明記ください。)

ました。まだ記憶に新しいトップパンホール主催の無伴奏パルティータ&ソナタの全曲演奏会(全2回／2022年3月、2023年7月)に寄せたインタビューでは、J.S.バッハの魅力について「“自然＝nature”を感じる音楽」と、自然を愛する彼らしい言葉で語っています。

繊細で鋭い感性が印象的だった10代の頃から変わらないのは、作曲家や作品、音楽に対して、真摯に、そして敬意をもって様々な表現に挑む姿。さらにいまの山根は音楽を創りあげる喜びにあふれ、より豊かに自由に舞台に息づいています。

今回の全曲演奏会では、響きを知り尽くしたトップパンホールの空間を味方に自由に奏で、深化を続ける彼の新たな地平をお聴きいただけることでしょう。また、11月の公演に先駆けて、J.S.バッハ無伴奏パルティータ&ソナタ全曲を録音した1st CDが、9月末に発売となります。山根のこれまで、そしてこれからを感じることができる1枚。コンサートとともに、待望のCDデビューにも期待が高まります。

「山根一仁×J.S.バッハ×無伴奏×トップパンホール」、この4つが揃った時、客席と舞台にあふれる無数の対話、熱、心地よい緊張感を、ぜひライブでご堪能ください。

山根一仁 (ヴァイオリン)
J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ &
パルティータ全曲演奏会

2024年11月4日(月・休) 14:00

J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン
ソナタ第1番 短調 BWV1001
パルティータ第1番 ロ短調 BWV1002
ソナタ第2番 イ短調 BWV1003
パルティータ第2番 ニ短調 BWV1004
ソナタ第3番 ハ長調 BWV1005
パルティータ第3番 ホ長調 BWV1006

全席指定：6,000円

主催：KAJIMOTO

お問い合わせ：カジモト・イープラス 050-3185-6728

※オペレーター対応(10:00～18:00)

チケットのお申し込み：トップパンホールチケットセンター

第93回 日本音楽コンクール 予選——未来に羽ばたく新星の挑戦！

毎年多くの若き才能が集う、日本音楽コンクール。日本で最も長い伝統と高い水準を誇ることで知られ、お客さまにとっては、コンサートとはまた違った緊張感のなか、フレッシュかつ熱い挑戦を体感できる貴重な機会となっています。第93回を迎える今年は、声楽(歌曲)、ピアノ、バイオリンに加えて、クラリネットとトランペットの計5部門の公開審査が、トップパンホールで行われます。このコンクールから羽ばたいた多くの演奏家たちが、日本、そして世界の音楽シーンを鮮やかに彩り続けているのは皆さまご存知の通り。太陽のような若いエネルギーに満ちあふれる夏のトップパンホール——新星誕生の瞬間に、ぜひお立ち会いください！

全席自由：2,500円／回数券(4枚) 8,000円
※ピアノ・バイオリン第3予選を除く

【ピアノ・バイオリン第3予選】全席指定：3,500円

チケットのお申し込み：トップパンホールチケットセンター



トップパンホール 2024/25シーズンの
オープニングコンサートへの出演も控えている

山根一仁が待望のCDデビュー！

「J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ全曲集」
(2024年5月15日～17日 中新田バッハホールにて収録)
発売元：キングレコード

9/25
発売

声楽部門(歌曲)	第1予選	8月24日(土)～25日(日)
	第2予選	8月31日(土)
トランペット部門	第1予選	8月26日(月)～27日(火)
	第2予選	8月30日(金)
バイオリン部門	第1予選	9月2日(月)～4日(水)
	第2予選	9月5日(木)～6日(金)
	第3予選	9月7日(土)
ピアノ部門	第1予選	9月9日(月)～13日(金)
	第2予選	9月15日(日)～17日(火)
	第3予選	9月19日(木)
クラリネット部門	第1予選	9月21日(土)～22日(日・祝)
	第2予選	9月24日(火)～25日(水)
	第3予選	9月27日(金)
※シャトルバスの運行はありません。		
主催：毎日新聞社 NHK 会場協力：トップパンホール		
特別協賛：三井物産株式会社 協賛：岩谷産業株式会社／株式会社INPEX		
お問い合わせ：日本音楽コンクール事務局 03-3212-0187(平日10:00～18:00)		

編集後記

今号での記事のために、7月に大萩康司さんにインタビューしました。夏真っ盛りなのなか、さわやかな笑顔でご来館。取材では、トップパンホールでの思い出にはじまり、歌手との共演の面白さや難しさ、バドモアとのデュオに向けた熱い想いなど、興味深いお話をたくさんしてくださいま

した。ホール内での撮影の様子は、大萩さん&トップパンホールの公式Xでポストしていますが、出来上がった写真は、木のホールとギターの親和性の高さを感じさせる、とてもステキな仕上がりです。インタビュー本編は後日WEB公開します。ぜひ楽しみにお待ちください！ (雪)

表紙：アンドレアス・シュタイアー

2004年、故ライナー・クスマウルとのデュオで初登場。2006年からは〈アンドレアス・シュタイアー プロジェクト〉を展開し、古典界の最先端をゆくシュタイアーの知性と見識に満ちたプログラムで、毎回刺激的なひとときをお届けしています。「ディアベリを弾く」と題した公演より、鬼才の眼差しに凄みを感じる迫力あるワンカットを。10月のステージも楽しみにお待ちください。